

## 平成29年度第1回広島市環境審議会 議事要旨

### 1 日時

平成29年12月21日（木） 午前10時～午前11時50分

### 2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

### 3 出席委員

田中 純子（会長）、西嶋 渉（副会長）、栗屋 仁美、大浜 裕香、甲斐 智子、田中 貴宏、寺岡 菊恵、中山 幸子、長谷川 弘、林 武広、牧里 重喜、柳下 正治、若松 伸司（以上13名）

### 4 次第

#### (1) 開会

#### (2) 局長挨拶

#### (3) 会長・副会長の選任

#### (4) 議事

報告1 広島市地球温暖化対策地域推進計画（旧計画）の実績報告について

報告2 温室効果ガス排出量の報告について

報告3 第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成28年度）について

#### (5) 閉会

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴人の人数

0名

### 7 会議資料

- ・ （報告1）広島市地球温暖化対策地域推進計画（旧計画）の実績報告について
- ・ （報告2）温室効果ガス排出量の報告について
- ・ （報告3）第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成28年度）について

8 議事要旨

発言者	発言要旨
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日の議事は、報告が3件、「広島市地球温暖化対策地域推進計画（旧計画）の実績報告について」、「温室効果ガス排出量の報告について」及び「第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成28年度）について」である。</li> <li>・ 報告1の「広島市地球温暖化対策地域推進計画（旧計画）の実績報告について」と、報告2の「温室効果ガス排出量の報告について」は、内容が関連しているので、一括して事務局から説明してください。</li> </ul>
温暖化対策課長	<p>【報告1 広島市地球温暖化対策地域推進計画（旧計画）の実績報告について説明】</p> <p>【報告2 温室効果ガス排出量の報告について説明】</p>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告1の「施策の実施状況」について、191項目中約95%が「実施中・実施完了」であるが、「実施・検討していたが中止」が9つある。その9つについて説明していただけるか。</li> </ul>
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9つの内訳であるが、まず、「1 家庭生活での取組を促すための施策」の「(6) ごみ減量・リサイクルの推進」に2つの事業がある。1つは、「中工場溶融スラグの有効利用」（4ページ、13番）、もう1つは、「家庭用生ごみ処理機の普及促進」（4ページ、17番）である。「中工場溶融スラグの有効利用」については、コストが割高であるということで、事業を断念した。「家庭用生ごみ処理機の普及促進」については、補助制度をつくったものの、ニーズがなかなか出て来なかったということで、事業を中止した。</li> <li>・ 続いて、8ページの73番と74番にある「建築資材の再利用促進等事業」と「住宅建材再利用・耐震建替補助」についてであるが、ニーズの掘り起こし等を行ったが、やはりニーズがなかったということで、事業を断念している。</li> <li>・ 続いて、10ページの92番「エネルギーステーションの立地誘導」についてであるが、これは、電気自動車、水素を使用した自動車の充電する場所を立地誘導しようとしたものであるが、市有地、民間が所有する土地でそういった充電ができる所がないか探したところ、結局、そういった土地は見つからず断念したものである。</li> <li>・ 続いて、15ページの159番と160番にある「市民参加のCO<sub>2</sub>排出量取引制度」と「カーボンオフセットの仕組みの検討・実施及びカーボンバンクの試行」についてであるが、どちらもCO<sub>2</sub>の排出を抑制するために、市域限定で排出量取引をしようと実証実験を進めたが、取引を成立させることができず、市域限定で行うことは非常に難しいということで、事業を断念した。</li> <li>・ 続いて、17ページの185番「エネルギー・温暖化対策クロスセクションの運営」についてであるが、温暖化対策は行政分野が非常に幅広いので、</li> </ul>

	<p>組織横断的な取組を作るということでクロスセクションを設けて、環境局が調整役となって各局の調整をしてきたが、どの組織がどの事業を実施するかという責任の所在が明確でないという問題が顕在化し、温暖化対策課という組織を環境局の中に作ることによってクロスセクションは廃止した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最後に、18ページの188番「バイオ燃料（バイオディーゼル5%混合軽油等）の普及促進」についてであるが、軽油に代わるものとして、バイオディーゼル燃料を混合した燃料で車を走らせていくという実証実験を進めてきたが、コストが割高であること、バイオディーゼルを混合していくという技術が難しかったことから、実証実験を中断した。</li> </ul>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>9つの実施できなかったものについて、トライはされているが、様々な側面で実施が困難であったという説明であった。</li> <li>報告1について、何か御意見等はあるか。</li> </ul>
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>185番「エネルギー・温暖化対策クロスセクションの運営」について、温暖化対策を総合的にとらえる庁舎における推進役を温暖化対策課に集約したのであれば、中止という書き方がいいかどうかは疑問である。</li> <li>160番「カーボンオフセットの仕組みの検討・実施及びカーボンバンクの試行」について、カーボンオフセットは必ずしも広域的に行うものではない。また、役所が行うというよりも、民間が自発的に行うことが多いものである。</li> </ul>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>「エネルギー・温暖化対策クロスセクションの運営」について、達成できなかった9つに入れなくてもいいという温かい御意見であった。</li> <li>次に、報告2について、トータルで見ると目標には達しなかったが、部門別で見ると、産業部門の省エネ対策が効果的であったり、民生・業務部門の省エネ対策もある程度進んできているということも分かってきている。また、軽自動車の割合が増えてきたことにより、運輸部門における二酸化炭素排出量についても増加が見られなかった。</li> <li>報告2について、何か御意見等はあるか。</li> </ul>
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告1は広島市役所が行った施策であるが、報告2は広島市役所が行った施策の結果となっていない。広島市役所が行い、民間が独自で行い、国が施策を行ったもろもろの結果である。</li> <li>これから市の計画をフォローする場合に、報告1と報告2を行えばいいということには必ずしもならない。報告1によって何がどう変わったのかは、報告2では分からない。報告1と報告2の中間に当たるものがないと、成果が分からない。</li> <li>報告2については、市役所が行った施策以外で効果的なものが民間にあるかもしれない。審議会では、そういったものも把握した上で、報告2を評価できるようにしないといけないのではないか。</li> </ul>
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近判明したこととして、代替フロンガスが非常に強い温室効果を持つとの説明があった。新しい計画は、その辺について考慮されたものになっているか。</li> </ul>

温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フロンについては、法令で、大規模な冷媒装置を使用している所については規制をしている。</li> <li>・ 新計画の中に、民間事業者にもフロン使用機器の管理の徹底を周知・啓発していくという取組を盛り込んでいる。具体的には、広島県や商工会議所と連携して、フロンに関しての周知・啓発のセミナーを行いたいと考えている。</li> <li>・ また、新計画では、K P I という業績評価指標を設けており、報告 1 と報告 2 の間を埋められるようにしたい。例えば、Z E H の件数とか L E D 照明の家庭での普及率等を K P I として設定している。</li> </ul>
西嶋副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9 ページの「廃棄物の処理」のところ、二酸化炭素排出量が増加している原因として、ごみの焼却量が増えているという説明があったが、平成 1 7 年度は、平成 2 年度と比較して、ごみの焼却量は増えているが、二酸化炭素排出量は減っている。ごみの焼却量の増加と二酸化炭素排出量の増加が連動しているように見えない。</li> </ul>
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二酸化炭素排出量が多いのは、紙とか生ごみではなく、プラスチック系のごみを燃やしたときであるが、プラスチック系のごみが増加したこと、また、可燃ごみの中にプラスチック系のごみが入っているという分別が徹底できていないことにより、二酸化炭素排出量が増加したと分析している。</li> </ul>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 1 7 年度の二酸化炭素排出量は減っているのに、ごみの焼却量が増えていることについては何か説明があるか。</li> </ul>
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その当時、プラスチック系のごみが少なかったことによるものである。</li> </ul>
西嶋副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今の説明でごみの中身が変わったことが原因であると分かったが、丁寧に説明していただかないと大きな矛盾になる。</li> </ul>
環境政策課長	<p>【報告 3 第 2 次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成 2 8 年度）について説明】</p>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 2 8 年度からの 5 年計画の第 2 次広島市環境基本計画に基づいた最初の報告である。</li> <li>・ 指標の数が 5 0 あり、達成が半分、評価なしが 3 割。未達成の 1 0 項目について説明があったが、何か御意見等はあるか。</li> </ul>
若松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価の方法について確認したい。</li> <li>・ 例えば、光化学オキシダントの項目であるが、現在、光化学オキシダントの環境基準は、厳しい基準が設けられているが、最近新たな指標が環境省から提案されている。そういったものも併せて検討すればいいと思うが、その辺の今後の見通しについて計画はあるか。</li> </ul>
環境保全課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 御指摘のとおり、光化学オキシダントについて、平成 2 6 年度で言うと、全国的に見ても、一般環境を測っている所で達成している局はない。</li> <li>・ 自動車の排出ガスの影響を受ける自動車沿線で、全国で 3. 6 % が達成ということで、ほとんど達成できていない。</li> <li>・ 国から新しい評価方法の案が示されているが、それが確定すれば、環境基本計画の達成状況の評価についても新しい方法を加えてやっていきたい。</li> </ul>

若松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に環境省のホームページで公表されているので、新しい方法でやってもらって構わないと思う。</li> </ul>
粟屋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成できたかできていないかについては、別の要因も関係しているので、簡単には判断できないのではないかな。</li> <li>例えば、1ページの「2 緑の保全」の「森林ボランティアの活動者数」について、活動者数は減っていて、要因は天候不良となっているが、過去にボランティアが育成され、イベントに行かなくていいという判断をしている人もいるので、活動者数が減ったからといって、達成できなかったとは言い切れないのではないかな。</li> <li>また、3ページの「3 環境への負荷の少ない交通体系等の整備」の「公共交通機関全体の利用者数」について、公共交通機関のインフラが充実したかどうか、輸送距離あるいは輸送時間で測った方がいいのではないかな。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>「森林ボランティアの活動者数」については、ある程度中長期に見ていくとか、過去に育成事業により育成されたボランティアの累計数を評価に加えるというようなことも検討できればと思う。</li> <li>「公共交通機関全体の利用者数」については、担当部署と相談したい。</li> </ul>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道事業者に騒音対策の配慮や工場・事業場にCODを出さないように働きかけるということであるが、強制力はなく、働きかけによりどれだけ効果があるか分からないが、一応働きかけをされるという理解でよいか。</li> </ul>
環境保全課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>CODについては、規制基準があり、事業者は規制基準を守っているが、海のCODは、海で内部生産されるものもあるのでなかなか難しい。</li> <li>CODが海域の評価でいいのかということが国で検討されているので、国の動きを見ながら評価方法を改めていきたい。</li> <li>新幹線騒音については、環境基準の70デシベルは厳しい値になっている。事業者は、線路を削ったり、車輪の適正管理に努めているので、事業者の動向を見ていきたい。</li> </ul>
西嶋副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>海域のCODが達成できるのかと言うと、現状、負荷削減は進んでいても、別の要因があり難しい。</li> <li>水質総量削減制度の中で、削減計画に従った削減は努力できるところであり、その削減の数字は入れた方がいいのではないかな。</li> <li>かきの生産量の指標について、環境基本計画との親和性が良くないのではないかな。かきの生産量は、多様性が高いから上がるわけでもない。その辺の関連がどこかで見えればいい。</li> </ul>
田中貴宏委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境基本計画の施策の方針で挙げられている事項が全て指標でカバーされているわけではないという理解でよいか。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境基本計画の34ページの「まちづくりにおける環境の保全等についての配慮」の項目で言うと、「(3) 防災・減災のまちづくりの推進」に対応する指標として「防災情報メール登録総件数」があるが、(1)と(2)など、指標の設定がされていないものもある。</li> </ul>

甲斐委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>田舎に住んでいる者として気になっているのが、まず、水田が減って、その水田の跡に太陽光発電ができた。それにより、とんどができなくなり、地域住民のつながりも薄くなった。このような環境になってきていることについて市はどのように思っているか。</li> </ul>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境基本計画は、「将来にわたって、豊かな水と緑に恵まれ、かつ、快適な都市生活を享受することができるまち」を掲げている。</li> <li>今の御意見を事務局で受け止めて、それがどのようなかたちで実行されるか、反映されるかということ、時を見て、甲斐委員に御意見を頂ければと思う。</li> </ul>
牧里委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民生活・事業者活動に関係のある項目が多くあるが、ポイントについては何らかのかたちで行うようにして、行政・市民・事業者が一体となって環境の評価に努めていく必要がある。その辺の考え方はどうか。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>本日の審議会の内容及び資料については、本市のホームページ等で広報していく。</li> <li>ポイントを、市民・事業者へ分かりやすく伝えていくことであるが、その方法については検討していく。</li> </ul>
林委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境基本計画の46ページにあるPDCAサイクルの「指標の見直し」という点について、指標そのものを見直すのか。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>先程、CODや光化学オキシダントについて、より適切な中間的な指標があるのではないかと御意見を頂いている。そういったことを踏まえて、見直しが必要であれば、行っていきたいと考えている。</li> </ul>
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境基本計画は、平成32年度が目標ということで、遠いようで近いが、一方で世の中の動きも早い。</li> <li>今後、森林環境税が導入される。また、温暖化問題の関係で言えば、車に関する動きは、世界的にも目まぐるしい。</li> <li>PDCAサイクルにおいて、新しい要素も入ってくるという認識をお願いしたい。そうしたことも、計画の見直しに生かされるように、これからの期待として御意見したい。</li> </ul>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほかに御意見等がないようであれば、本日の会議を終了する。</li> <li>長時間にわたり、感謝する。</li> </ul>